

麦思为平日德起  
大正七年一月

特別

14

1919

574



斐魚堂日誌

大正七年一月戊午

一月

元旦

昨所風多し、本年午午の歳、一夜のけ  
 て馬鹿を主ぬ、例のこころ朝記もつ  
 接するところ各心も、事ある賀事すの  
 堆を為すところ也、家族と居る勉の杯  
 を着け餘を吹ら、例のこころし、四眼の  
 威胃、酒くまり、腸カク、未以金へす、  
 近來、大空、扱水、三、名刺を授け  
 乙去り、堂に上らざる、揚、生い、法、閑、僧

唐にありしが如し、寧ろ今心也、印刷の  
弊状をかよる夏祀と云ふに数年  
来る通んくも、自著下の弊状を元且  
に書くと何とく、そのもろえを傳うの



捨したる者を以て、萬物一馬の古雅、  
印の古雅に於て用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら

一、下印  
二、上印  
下、捺  
上、ハ  
一、下印  
二、上印  
下、捺  
上、ハ

東林堂

乙亥の著、其の第一の所を、酒を如く、  
百客の致し、そのもろえを傳うの  
大腸病の終、其の用を多し、自ら

二〇

相、其の、腸患あり、其の用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら  
為し、世に於て其の用を多し、自ら

の衝き方」才一回き頁を掲出す、以朔  
取向く、却るべき行者を油の午後二  
三寸半の空あり、下割の結果志がく利  
し、早くの往ぬ

三日

昨、越前く物のがれた的家を出し、北の岸  
五右の汽車に投ず、車中なる治淋、中前  
田の村に合す、國方津に下車、電  
車出ると、結念や、母根岸、練次介  
の合す、又や回る、田の電車中、田原  
の世帯、又合す、此れを例とし

忠實  
六

都念より、越前、行の行役、幾く多く、物  
つこころを乗るを得、物より、越前く  
入る路、定むる、四的、利を、定むる、定むる、  
二、危大混雑、一、定むる、定むる、  
取、取、し、井上、辰と、同、合、す、  
と、と、取、す、の、物、と、葉、子、を、  
と、と、と、と、と、と、二、三、の、物、を、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

四

昨、其、事、の、事、の、事、  
初、の、事、の、事、

此の法し報らぬ母の十二の法は、  
四角後、のどの井上と酒を焼く。物取  
山の法に、土屋、佐賀、東法、久利、三流  
しとある。古来のもの、法をとりきるといふ  
取、阿細工、茶棚を、建、あて、内、右、後、印  
その法、の、用、に、使、せん、と、す、と、水、井、上、と、あ  
つ、法、す、と、い、ふ、す、十二、の、こ、の、あ、つ、法、と、い  
を、得、た、る

五の

暖かきも、較く暖、内、あ、大、寛、と、い、ふ、事  
古、直、に、是、を、考、へ、る、と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、

出、放、部、の、法、は、自、正、午、迄、協、成、す、は、此、の  
新、法、に、考、へ、る、と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
宮、田、倫、の、法、は、自、正、午、迄、協、成、す、は、此、の  
法、を、考、へ、る、と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
つ、け、て、又、別、の、物、を、考、へ、る

六の

所、以、て、家、を、考、へ、る、と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、  
と、い、ふ、事、土、屋、佐、賀、東、法、の、法、

東、法、の、法、

を其つゝあり。村井親の法為う結太の証  
を聴く

七の

明治の海に清在才數の清うあめ、  
務を考く意を材料の市の法施造  
のため所法を成しを新多の西東と法す  
河内も是也。有幼。社使の法車浦と  
見送らる、車中浦東の法を以て法  
し難造云んふや、  
み耽る、  
中より午うく降雪あり十二時  
半の田舎なる、國府津に於て午の

書し二時四半の汽車ありて切毛

八の

明治の車は極る驚く、  
徳、  
出故部を造りて  
文三  
大

赤田に二三日の新刊書と解ひ読み  
無由に録し流物言ふ事と云ふこと

七〇

明、佐伯支田も後の方状に甘言流説を  
本の化表す流、下西郷より手紙切符を  
割引料もおきき、書紙料、并に所均  
宛納り、午後兎の家用の火鉢を  
少川町に贈ひ、流邊森、あるあはの由  
銅板印と題ひ高木方、書を贈りし  
く、細貝正邦の物の記と意用を誤  
ち、

東林堂

七〇

明、と既昂大破、ある六回り方、折く  
内、おと書紙と交ひ、左方改更の由を  
し、身上の件、有す者、皆あはれ  
弟地、えんや、者状を別り、投反言格  
典、事つ、一身上の件、有す流、由、証、事、  
お、流、者、を、其、つ、の、支、田、あ、は、れ、  
流、の、と、其、者、状、を、え、ん、心、由、暗、桂、香、耳、流、  
と、お、ら、と、其、つ、し、り、収、有、る、閑、乗、し、七、酒、  
前、身、後、録、中、四、巻、者、き、如、の、ハ、葉、草、  
し、う、ひ、

昨、三輪潤大印、少田清尾、種村宗八、古池  
素、三本訪、古池、と、吉尾、秋、古井の  
手切一幅を、精、改、装、を、託、す、植、木、清  
策、可、為、物、を、贈、る、組、育、者、中、村  
宗、八、の、賀、状、刺、直、午、後、酒、後、好  
を、着、す、新、以、平、大、の、名、刺、之、位  
と、さ、う、さ、土、屋、政、隆、道、新、任、の、換、持  
と、ま、る、四、的、と、高、田、に、招、へ、上、院  
の、梅、川、に、携、る、能、く、と、新、印、大、磯、日  
之、三、

東  
林  
道  
六

昨、市村英輔(投反)と、吉尾、出、流、の、好、人、と  
可、為、物、中、北、社、の、美、術、者、藤、野、と、す、社  
中、の、方、流、し、と、ま、る、湯、浅、吉、中、京、野、と  
り、飯、京、田、志、社、繪、物、の、如、書、を、流、す  
午、飯、ら、と、共、う、し、と、ま、る、酒、後、好、を  
著、す、午、後、吉、美、海、可、為、物、真、路、桂、次  
印、真、氣、ある、と、我、利、の、新、印、の、新、社、と、す  
後、居、る、道、知、有、る、真、路、桂、次、印、の、復、す、  
日本、花、沖、名、社、株、主、総、会、の、道、條、有、る、(本  
ル、林、道、六)



昨、校友志平環舟の意永版権を商  
くし、まう、亦、季女を付めし、船生、物  
と、婚心、移ら、致し、丸、舌、を、物、の、二、フ、  
、ル、カ、イ、ム、の、物、集、ア、ル、ハ、ム、を、婚、心、  
、神、田、深、遠、在、に、シ、ヤ、ツ、大、砲、型、の、風  
、銃、四、個、を、贈、心、と、向、山、路、の、月、を、  
、休、思、し、て、入、る、在、越、海、境、の、道、途、を、  
、其、者、西、路、一、代、男、漢、也、

十四日

朝、来、日、曇、天、午、後、一、天、雷、を、傳、し、寒、を、殊  
、甚、し、古、池、二、三、の、幅、を、持、是、道、に、  
、

出、版、部、を、株、式、組、織、に、變、更、す、る、に、對、其  
、の、考、察、に、油、印、す、内、部、も、今、比、に、功、心  
、お、致、す、と、事、業、の、進、歩、に、午、一、時、を、共、に、  
、由、途、四、名、平、山、物、を、送、り、て、之、の、功、心  
、を、考、察、す、る、に、功、心、を、送、る、内、に、功、心  
、心、の、一、時、の、送、り、細、目、に、功、心、の、考、察、を、  
、致、す、

十五日

昨、田、原、柳、城、印、念、經、出、版、部、本、部、に、功、心、  
、を、考、察、す、る、に、山、田、路、の、功、心、を、  
、考、察、し、五、名、平、の、功、心、を、考、察、す、る、に、  
、

海浜と知る所にて蓮葉ありきし程々の  
注葉をくし通し兼に草子池を一杭七  
つ包こし差あする、古申東伝に荷し七際  
地況原を勧あり、古池に牛尾尾秋の備  
代七田中十身拂函、高橋義彦に前  
し古田東伝の病状を敷す、午後未  
とゆあを若干の拂とさうし、唐物大買向  
と繕あり又池田お村市此地物移るも蓮  
の代官戸に杖を指あり、いん現下要るも  
其に惜しきも也、お村と田村の娘も  
あふ余故揮俗人の者ともさうし思ひし  
也、情子来治。

東傳  
書

十一  
百

晴風、原久ア甲一身上の件、来治、高田  
後確程村言ハ又江村と其幼、出取  
部の似似、夏更を校らし、高川、柳  
更と罷りし、所伝を伝り、又その件  
子内、渡りし、長め、方二、海、の、菊、香  
花を替くすも、揚山、後、次、印、ら、ま  
十、八、日、根、中、の、者、光、り、ま、る、良、常、の、ま、の  
道、知、者、利、る、此、根、好、出、え、ら、し、大、島、に  
并、三、の、者、利、る、田、中、唯、下、甲、と、ま、る、あ  
の、籠、子、一、つ、お、野、々、と、酒、後、お、と、お、い  
終、る、家、を、り、

時、其來を第一層とし、伊東祐教母の  
訃利を、所々一々し、其處迄、其來、其處、  
相山、河内、又、其來、三、崎、之、所、を、し  
解、を、時、々、々、其、橋、義、彦、を、并、び、左、右  
に、在、り、房、州、と、稱、し、出、東、と、云、ふ、出、版  
部、の、内、容、を、二、段、に、括、り、表、せ、る、方、針  
に、北、海、道、境、を、急、に、改、め、る、に、及、ハ、セ、り、と  
と、う、い、ふ、と、い、ふ、と、行、村、宗、八、在、協、後、身  
其、功、半、後、其、人、の、其、利、り、物、を、教、に、地  
く、其、利、の、也、

東海傳記  
卷之八

時、其來、三、其、功、を、其、子、を、托、す、出、版、部  
の、内、容、を、二、段、に、括、り、表、せ、る、方、針  
に、北、海、道、境、を、急、に、改、め、る、に、及、ハ、セ、り、と  
と、う、い、ふ、と、い、ふ、と、行、村、宗、八、在、協、後、身  
其、功、半、後、其、人、の、其、利、り、物、を、教、に、地  
く、其、利、の、也、

時、其來、三、其、功、を、其、子、を、托、す、出、版、部  
の、内、容、を、二、段、に、括、り、表、せ、る、方、針  
に、北、海、道、境、を、急、に、改、め、る、に、及、ハ、セ、り、と  
と、う、い、ふ、と、い、ふ、と、行、村、宗、八、在、協、後、身  
其、功、半、後、其、人、の、其、利、り、物、を、教、に、地  
く、其、利、の、也、

七と云。日清生る下保漢令社。利子  
法拂の件。有古状と見ゆ。伊東祿  
教。万、梅我秀典。為持老。有木  
方、使を考らし。不用。為二。並考す外  
：。全十由也。買り。代の内。を考す。  
山田。清。生。年。為。古。田。車。任。妻。有。事。の。如。狀  
耳。西。轉。地。を。金。に。思。主。銀。を。計。き。と。考  
考。と。報。す。表。り。も。古。田。有。事。の。二。曲  
小。席。風。を。雙。油。物。を。保。教。二。月。中  
出。来。の。約。也。憶。有。松。浦。武。田。の。氏。方。同  
并。：。古。田。有。事。を。志。我。志。と。托。す。新。五。采  
家。心。の中。先。手。續。と。為。す。運。送。染。布。八。个

東林可也  
申付

三。る。因。に。記。入。古。木。を。古。物。大。布。采  
と。條。の。二。的。部。生。ぬ。と。物。を。條。ひ。四。六  
と。井。山。木。と。ゆ。め。て。古。田。有。事。と。條  
ひ。利。物。と。三。河。包。し。條。合。り。し。物。書。下  
七。中。一。の。中。の。條。有。事。有。事。と。條。の。中  
更。と。考。し。し。三。條。の。た。ら。し。と。考。す  
山。田。有。事。と。考。す。古。田。有。事。と。考。す  
義。長。と。考。す。古。田。有。事。と。考。す

二十。

時。土。佐。城。經。押。も。古。田。有。事。の。函。紙。有  
附。表。の。心。に。托。し。と。考。す。出。来。は。古。田。有。事。と

指く、事務指：電報指：古次と見し  
光田東佐の為紙指：つぎ云々、山田教  
城：是をふ、訓たら、すも治、其あを付  
九、如後、檀上方：字、其、高、未、方、  
立、字、初、也、架、代、掛、ら、初、座、の  
指、互、に、致、し、涉、所、な、る、と、の、次、初、を、親  
指、互、に、致、し、涉、所、な、る、と、の、次、初、を、親  
二、一、番、え、上、京、の、旨、電、報、あ、ら、の  
同、人、と、し、二、色、の、郵、指、利、を、送、す。

二十一。

明内久之竟も、石川清曼宛の件。

電報指

日電指、其の、すも、東、佐、鋤、子、橋、地、先、  
り、其、者、古、指、ま、さ、り、を、指、き、山、田、  
元、河、外、に、小、紙、の、幅、紙、漢、を、紙、す、  
言、指、回、者、致、く、若、干、の、圓、者、と、寄、指、  
す、ま、り、付、指、回、大、方、を、指、き、圓、者、の、  
解説、を、寄、り、指、を、し、ら、多、く、は、若、指、  
指、互、に、致、し、涉、所、な、る、と、の、次、初、を、親  
指、互、に、致、し、涉、所、な、る、と、の、次、初、を、親  
と、寄、り、し、ま、り、を、指、す、其、者、を、指、し、  
と、寄、り、し、ま、り、を、指、す、其、者、を、指、し、  
物、出、先、と、し、ま、り、を、指、す、其、者、を、指、し、  
あ、り、し、ま、り、を、指、す、其、者、を、指、し、

前の区に於ては、同様に御釈（読み）と述べて  
るに、一合也、自今より朝の汽  
車に出る、その後、是れ未だ望む事の中  
に、（読み）と述べて、快流を、決す

二十二日

今朝、五時の鈍子とて、吉田の病状を、  
一、電流列、六時半、念白、ある、  
車、向けて、出、る、  
時、  
局、  
あ、  
以、  
也

東洋

信、  
二、  
し、  
入、  
と、  
初、  
快、  
回、  
る、  
静、  
別、  
り、

二十の七別ありきり子息ありて東より戻  
 し此物七二合の酒をよししうと二十  
 之終り若中一に在り此物とて公を  
 絶ら喫り分御の主ぬの點候せん  
 言入り初めし昔酒の物と清身之  
 在認めあると結をよめても  
 冬しきも其效るるを冬に危  
 瀕の事と云ふ也合ふも  
 依原恒二倍す七時冷あり  
 方し本林恒三時有自也二  
 元ありとある此地利根川  
 と言ふ其田の事所以滋く地解

東林園

不るを得るを其田を利根川  
 味を感しるるに利根川を其  
 送法云し深し此地冬死す  
 と言ふべき也其田二三四の  
 早大肥子倍代と云ふ内は  
 又横井と云ふ十二時神  
 其り此河を枕に讀む此物  
 博士の吃終を言ふんを四五  
 略を記す其東の朝日中外  
 リ其故を余り記述を七と  
 此中大便を記す高橋其故

本朝一番高き、出の及の電報車、  
午前二時、寝、就く、横井其命、  
士の履、履、を、授し、  
地、東京、比、  
夜、下、  
欠き、不快、を、受、ふ

二十三日

和、吉、内、道、  
了、  
統、  
急、  
一、  
決、

中、  
林、  
の、  
書、  
記、

内、  
主、  
一、  
鈍、  
と、  
と、  
又、  
の、  
棺、  
吉、  
冬、  
乙、  
一、



早月想と物多、市山の中は是れ  
高橋義彦とて醒世と物多、其の  
上は朝輝とて傳來物を物多

二十四日

晴、多額物を高くして、内子克四方、元品  
に行く、非本江巻衣、前日依囉せし、切  
を押さもして折るくす、籾子を袋  
に巻く、園大、中、久江、城、菊、尾、来  
ふ、菊、尾、に、宵、基、代、十、四、拂、ま、り、  
増、手、長、く、一、来、物、高、橋、義、彦、旗、堂、  
某、名、織、十、四、時、彦、方、中、時、物、の、も、り、  
り、三、人、と、會、食、す、其、の、早、者、と、し、廿、七

東  
林  
寺  
六

日、自、免、軒、に、移、り、物、堂、を、振、く、二、日、余  
を、振、く、方、り、来、り、安、倉、の、中、に、方、  
別、り、桑、井、儀、の、部、累、を、と、陽、湖、し、十  
一、時、迄、権、前、に、侍、し、七、物、也、旗、堂、を  
振、余、の、家、に、有、り

二十五日

晴、雙、の、重、流、の、故、の、結、縛、内、の、中、の、件、有  
来、物、を、高、橋、義、彦、と、て、元、品、物、を、物、多、  
高、橋、の、古、状、と、て、物、多、と、て、故、み、中、の、高、橋、  
千、崎、橋、一、の、桑、井、儀、に、物、多、と、て、  
と、し、千、里、の、初、道、杖、利、り、其、名、

成らざる向を操す、高年方之添物  
古相本上正を鑑み、横山又治申の前  
世界史刊行出版部之配在受  
く、今秋五箇方、行、うす年々所  
才在函海河有也道(至)る、

二十七日

明、今秋七の吉田方、計去く、祿及権前  
式と執行、後撮敷し、其の出権金中  
系列と度し、視成由事、力権、尾  
行、九の半、古山、南、十時、  
式を行、榮官、平、四、盛、也、十一、

西本

全く式をうり、今、若、執、代、權、  
系、坊、の、権、を、一、の、身、を、  
物、を、  
計、七、の、八、十、七、月、廿、七、日、  
期、分、に、  
日、五、元、  
書、  
利、子、  
西、本、



を革す、大正二年の地租中二約八〇  
納了、平山町にても二月二三日ありき  
月物をさす可なり、借主も利子の  
計算を改め二十回を減して返却し其の

二十九の

時、市庁の中らして年者、関方の中らして外  
平内動銀の執事、未定の方を徳流し  
革す、し、此のを継ぎ、天會又の長比  
えりして失敗の所也、午後五時内を  
動改、可、此のを出、即部、其他の件を  
切、知、又、今、切、也、行、村、家、ハ、と

東  
林  
記

来者、田中、四、中、右、五、の、母、の、訃、到、り

三十の

時、古、田、丸、美、の、件、を、丹、正、三、原、示、ら、し、年  
六月、江、原、の、回、を、切、場、合、の、大、合、を、行  
く、件、を、江、原、の、林、野、流、し、し、年、信、余、と  
材料、を、出、す、市、の、家、の、事、蹟、一、月、二、日  
難、は、又、此、の、事、を、世、界、に、揚、載、せ、ん  
と、此、贈、附、を、受、く、加、賀、子、に、出、京、其、流  
行、を、上、法、師、可、なり、行、村、家、ハ、少、林、山、三  
之、師、岡、方、り、又、其、流、す、揚、載、せ、ん、事、由、也  
と、市、庭、を、其、の、件、亦、に、相、解、を、と、る、也

引元件、も子扱を非公式、云々の通  
知を得、ついでに高橋義彦に報告  
す、午後十時、桂香、車、澄泥研一  
印二顆を購ふ代函、

三十一日

昨夜、三輪岡大、も車、ある事、  
の、ついでに、活活と、ついでに、  
付、其、あ、を、心、さ、る、  
を、後、者、一、比、交、集、集、  
人の、出、交、集、集、と、心、さ、る、  
料、と、埃、出、す、二、三、枚、不、是、  
材、香、二

便  
本  
二  
三

香、と、心、さ、る、  
由、と、心、さ、る、  
研、と、心、さ、る、

二月

一日

昨夜、カ、雨、降、桂、香、と、心、さ、る、  
山、田、信、也、花、白、車、一、車、  
十、説、六、冊、  
川、上、法、師、  
を、二、冊、  
英、二、の、

母の葬儀に臨み、(西面而洗)うつし美  
術聖樂部の長を立と見せしむ。高橋  
義彦らとし集者、田中、香興ら面を  
す、都古中橋士のさるる酒を注ぎ給ひ、  
老をすこひ山崎教海に方状をいひ、北  
香らと返り来る。高木と坊の物と  
膳の。

二日

明博子孫一印事法、川上法所来る。時  
と引つこき、都古田中法所のさるる所、木  
成と口授事、給ひしむ、都古田中法所

し事者、市所より中法所物と給ひ、  
午後久代事也、法所未成、中法所、信せん  
方画を出し示し、此、法所、中法所、  
梅月、出版部の人、中法所、中法所、  
出家、入道、後をいつとむ、此、中法所、  
中法所の現を捨す、大木、各、中法所、  
中法所、中法所、中法所、中法所、

三〇 日曜

明、初吹奏二の葬式(古山、高橋)に臨み、  
式後、同休の事、女を伴ひ、中法所、  
中法所、中法所、中法所、中法所、

海州一、流動をうきとるを為考  
了、不在中、智田直流をある事勿  
と疑ふ、又、由田長之、中士團  
智波屋の件、有事、又、反、  
佐伯叔也、其と、半、物、  
一、方、内、也、此、能、有、服、茶、一、七、快、  
元

四日

所、腹、痛、金、元、八、の、起、床、市、  
橋、義、彦、一、七、の、事、也、  
茶、方、の、事、也、  
市、  
元

九日、の、件、一、七、の、事、也、  
田、直、流、市、  
海、州、一、七、の、事、也、  
事、一、七、の、事、也、  
前、回、分、  
準、一、七、の、事、也、  
山、  
午、  
仁、一、七、の、事、也、  
問、

皇天湯使廿月三木武吉耳功勳倉  
おみなる買高のケンカン  
大改本坊好名も山功の遺簡を載せ  
る教統を贈りまふ山崎直三父直胤の  
訃到る平山をもち山功の古相研屏  
(三十五回)おみをまふ  
河内土行一休徳阿の誦の巻を云々の伝  
説をまふ(一)大音及大音生し記する  
大津貞花おまふ東使の事唐の  
物説をまふ二時可：海に話説を  
筆下初しお三木武吉を返合説文送

東林寺

春のときは其海客教し七教を及  
を筆す行村しし其古たの今津ハ一  
休木渡部を付のし其内を其海に功  
のみを朝来まふ原白克(又一)しし  
也心二ツ命をまふ内をまふし其海  
其二の時自動車を記り唐帝に  
おみ内をまふし其古たを其海に功  
其千葉のとあすし其行の内海に  
其の又し其海に功

雨、多き由其次に人を老し及物を老









十一日 紀元節

皇元、朝拜の礼増資既三の事と昔き  
真し正なる色に成り由ありて邦に送す  
後人物俤備万厚に及ぶ山あちりし  
功、古きより、既し昔依る山仲氏  
乃ち序跋一書と其家流物云一其昔  
子、奥の山を花日入社決し方及の位及を  
解ししと出立ありて流り、宇尾尾  
ハ其の力、徳を其の件よりあり、  
の徳のと流るの事、  
ゆゑに、奥の山を漸  
の徳の、  
の徳の、

十二日

昨、初め、  
杜香らしし、  
家の、  
其、  
ゆゑに、  
山、  
拂、  
二、

・瀬曲を治るゝ河清鶴口・治るゝ  
の埔根面より前より橋もを修理し  
之を成す。

十一  
十二

晴日・素陽美・秋馬治・捧出七馬治一  
身上のりも云々云々、立橋河堤の直道  
其方押さむと形も直切二枚を弄せ  
有る、金堤亦寺此元寺と考杖と  
是方も、昔昔、河舟車、午おをと總の  
おる、内におをい供え余おあ共の既言  
と治ち〜と、河舟車、午おをと總の

地味者・心とあり、平山堂らと昔高き  
目録を考す、道途並に留置押さむの  
ヤ切と云々を、河舟車、午おをと總の  
おる、内におをい供え余おあ共の既言  
と治ち〜と、河舟車、午おをと總の

十四

晴日・五峰寺、龍善堂の報書、菊  
池橋考が考すの致意を云と内におをい  
けず、外冷〜と、押さむの程冊到來  
河考をみお考す、立橋河堤の直道  
也就とあり、田代英一馬治一身上

の件と云ふ事、此本の汲部漢夫  
 首を刺す事あり、午後より新田屋へ小  
 切の御配合を試む、永楽堂樂部、松竹  
 の路あり、行札言古、印地を引き、松竹  
 とし、十四のち御切手と申す事あり、松  
 木包、牛垣統平、五代五田柳河内、刊  
 行、今、山利乃、新田屋中、甚高、筆下、記  
 を讀み、初より、新田屋中、甚高、筆下、記  
 吉田傳士、此の証言、右の着の合、此  
 元結、初平あり、

十五。

明、ゆゑ、さし、吉岡と云ふ、結、新、其、印、の  
 件、其、事、也、政、以、其、事、七、洋、隆、一、不、理  
 元、新、事、也、其、事、也、を、初、ま、初、日、  
 六、松、折、の、居、る、事、を、双、結、文、と、爲、す、  
 半、双、結、の、事、也、直、つ、松、折、の、事、也、馬、鹿  
 合、と、出、品、の、件、其、事、也、政、以、其、事、  
 を、初、ま、初、日、の、事、也、其、事、也、  
 寺、外、の、事、也、其、事、也、其、事、也、  
 伊、予、已、信、殿、の、事、也、其、事、也、

十六。

明、山、佛、國、也、其、事、也、其、事、也、

丹美在道にらし来る者、極点北を去る丹  
美く佛事、行入、身任の自由を  
失、此道河に冷然と、狂心の中、  
切ん三日と丹美に、静養、其及、  
せん、と有り、在、丹美、原平、  
とあり、字、居、人、  
若、ま、居、文、  
に、成、良、意、多、美、術、  
丹美在道三三、  
流、山、  
九、  
き、  
早

らし廿の自、  
相、  
寛、  
十

十七り。〇。〇。

時、内、  
す、  
の、  
生、  
（、  
康、  
六、

東、和道伊東屋、萬年井と猪心湯  
州、活動を見、為、芳内書、在、澤原寺  
崎元、金、毛、藤、鋒、と、解、る、ま、田、未、三、火  
才、功、物、と、解、る、関、中、久、道、の、く、道、  
二、百、耳、者、不、在、中、関、中、久、道、の、く、道、

十八。

崎、田、原、未、三、火、才、功、物、と、解、る、ま、田、未、三、火  
才、功、物、と、解、る、関、中、久、道、の、く、道、  
二、百、耳、者、不、在、中、関、中、久、道、の、く、道、

恒と根き、向、好、る、と、依、然、と、善、海、合  
支、那、の、二、三、の、事、を、記、す、(一、二、三、) 好、好、好、  
古、物、と、話、し、る、る、好、好、好、入、在、而、未、三、火  
才、功、物、と、解、る、関、中、久、道、の、く、道、

十九。

崎、田、原、未、三、火、才、功、物、と、解、る、ま、田、未、三、火  
才、功、物、と、解、る、関、中、久、道、の、く、道、  
二、百、耳、者、不、在、中、関、中、久、道、の、く、道、



古物通販と云ふ者。

二十〇

所、舟、程村、高入、森陽、美新、木村、大見、  
中、嶋、塚、弘（根物、保、屋、合、子、枝、河）並、木、尾、  
東、幼、良、意、多、く、情、早、り、務、信、生、戸、  
良、寛、悔、二（重、新）陣、又、年、に、悔、一（直、心、  
舟）為、物、出、流、ま、あ、お、と、雪、境、を、交、換、  
ま、守、尾、回、高、八、く、く、来、者、の、情、  
田、中、海、と、物、の、情、を、其、の、内、の、情、  
以、方、函、十、枚、情、を、え、く、推、の、帯、の、小、形、  
観、者、小、品、情、の、情、の、代、り、の、情、

四、時、の、高、田、に、根、え、自、足、船、に、航、ち、  
杉、木、物、の、情、保、屋、の、四、中、情、下、前、田、来、者、  
在、上、海、岸、の、情、の、情、の、情、の、情、  
を、え、く、

二十一〇

所、旗、中、次、子、上、高、来、者、並、木、柱、を、  
以、東、間、二、泊、と、云、ふ、有、名、久、意、二、二、  
の、情、を、え、く、保、屋、の、情、即、利、元、積、  
者、と、云、ふ、保、屋、の、情、即、利、元、積、  
即、利、元、積、二、即、利、元、積、川、上、法、師、の、情、  
五、三、来、者、の、情、の、情、の、情、の、情、

お物を辨めを御する。

二十二日

明、博子より二ヶ所、関大らへ申す。大さきを井  
三森、師を招き文の協会の時向所宛を  
を大隈邸へ、ついでに竹協派を、御りしき  
はる丑十日引出す。午後平山堂を御り  
て、観山佛堂印のものを托す。川崎堂に  
に残りしものを托す。干しはるのものを  
に送りしものごとく、花瓶一利、高杉  
墨斗一と辨めを御する。表裏を  
備わす。出来、山おのち協立し。表裏

届くところ。杉井邸流中々の代、吳一と  
来者、寅の互次を朝野長者の御  
引、相次を三と申す。大改の山に  
夫中、無衝、余の者、前巻を二巻、白、  
申見と、申す。杉井邸、申す。

二十三日

お物を辨めを御する。観山佛  
お通す。打井邸より、三三三の御り、  
相次を三と申す。長者を授す。十日の日、  
伊予郡のより、三三三の御り、陣列の遺  
墨を御す。数二る御り、御り。

と車あつたお事なりとも万四千五十五  
良寛遺什の大観也一の御書北  
本より代々の方々に到る本流は遠く  
快の類子也。良寛の心より流るる千  
田波瀾、三の何内古のこし家元物  
三希則別傳行く光と流るる院を  
可付す、駐露のあり方使引揚の流るる類  
の出づ

二十四日 小確

明、安田恭老関する御書急三平山を  
利助馬功、利助、親山極美印と托書

出心論為出勝々の件有本功、東亮  
平らしし本方、家数する御書火と付を  
外出高本方と物並極心十四の御書、  
内、拂、所産の杉葉に似し所産の金  
葉銘、流動考まといわたり、御書  
不在中、大波の少川為、御書、本功

二十五日

明、と親つた牛の遺書、三の御書、  
区役所、投、御書、所、三、る、谷、信、御書、と、投  
御書、と、る、大、隈、侯、と、杉、山、御書、と、河、邊  
之、御書、の、御書、と、侯、の、御書、と、御書、御書

今の子供は、方場、似し候、同去と、何、  
平山、中々、親山、幅、を、き、る、を、千、田、以、  
上、こ、ま、印、を、し、こ、ま、を、わ、り、る、を、左、向、ハ、る、由、  
より、右、五、る、由、つ、れ、の、脈、す、山、也、と、  
能、通、の、五、る、由、差、り、五、印、三、る、由、也、と、  
つ、ま、ま、え、ん、と、何、天、製、物、く、ま、あ、く、を、通、  
出、く、法、術、の、折、草、を、捨、る、卷、廿、五、海、  
東、流、自、叙、傳、を、傳、ん、こ、と、を、思、ひ、ま、る、と、  
何、れ、に、其、案、を、ま、つ、少、為、有、り、と、其、の、  
波、の、屯、の、心、し、終、一、半、帝、一、板、一、白、  
天、無、の、能、ん、十、の、物、也、

二十七日

昨日、園、中、に、東、海、の、由、來、を、主、に、五、十、日、親、  
山、幅、引、え、る、由、を、合、色、印、一、至、七、十、日、  
月、末、家、内、を、ま、回、り、一、波、入、古、澤、を、去、り、  
尾、に、十、五、日、波、入、高、木、を、泊、り、午、時、  
中、津、舟、上、に、少、川、舟、向、と、午、時、舟、を、乗、り、又、  
中、津、舟、井、船、舟、を、差、ん、を、と、り、又、一、丸、を、差、ん、を、  
河、舟、を、懸、か、を、購、ふ、三、月、舟、の、所、分、成、者、  
福、只、は、遠、る、の、入、物、舟、方、別、也、外、出、中、津、舟、  
海、津、海、舟、其、船、を、折、り、舟、し、す、ま、り、舟、の、  
つ、ま、ま、え、ん、



こと今四如の也、是昔海無功、海海  
能其然八冊精入、ま三十中白波す、其  
此桂のりし、白波を、能りしと、考其

〇 三月

一日

明、之、夏、合、多、海、也、供、と、考、を、し、出、石、の、極  
其、此、其、之、高、橋、義、虎、名、在、引、元、高、橋  
義、虎、の、り、出、石、上、を、考、し、其、考、  
桂、考、を、考、也、を、考、す、又、合、津、八、一、の、考  
、又、其、の、其、考、を、考、す、其、考、の、出、石、

東海傳

是、日本、衣、油、考、也、其、考、増、次、決、定、の、通  
牒、列、る、山、嵐、首、の、餅、の、刺、り、米、を、揚、ぐ、此  
米、は、紙、俵、を、し、其、考、を、考、す、其、考、  
長、寛、久、き、出、石、二、揚、紙、を、使、え、其、考、  
す、其、考、乗、り、し、自、叙、傳、中、の、思、出、を  
其、考、三、田、村、玄、龍、を、考、す、其、考、  
輪、海、の、版、本、中、二、考、に、述、ぶ、序、文、を、試  
み、其、考、を、考、す、其、考、を、考、す、

二〇

明、其、其、考、を、考、す、其、考、を、考、す、其、考、  
幅、二、三、の、竹、考、を、考、す、其、考、を、考、す、

二枚打屋分二、元言者も、十四時柱者も  
此在銅印を頼と稱ふ代十四時、彼四直  
況と此時祝物を賜り来る、用、兼と  
自銀依印年時代を兼す、五時と称  
宗改古所播、備、木渡部外二三と  
年してこの依りうレックと出取する、  
堀瀬山、山、到、今、伴、一、七、東、今、

三〇

此、十四時、に托し、竹、津、河、扇、雨、列、を、  
良、之、鞠、の、跡、列、う、坂、に、旦、女、年、十、年、功、十、三  
時、迄、活、う、う、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、  
出、ま、年、功、の、功、あ、う、う、う、う、う、う、う、  
来、又、十、の、西、を、北、を、北、を、北、を、北、を、北、  
田、原、山、原、山、原、山、原、山、原、山、原、山、  
考、取、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、  
来、の、指、回、と、う、う、け、え、う、う、う、う、  
序、ら、又、う、う、の、行、と、在、無、海、内、に、投、し  
其、の、如、者、ト、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
の、喚、物、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
高、橋、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
物、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、

三〇

こゝに海神を、数集す、も、橋、親、元  
出、ま、年、功、の、功、あ、う、う、う、う、う、う、う、  
来、又、十、の、西、を、北、を、北、を、北、を、北、  
田、原、山、原、山、原、山、原、山、原、山、原、山、  
考、取、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、  
来、の、指、回、と、う、う、け、え、う、う、う、う、  
序、ら、又、う、う、の、行、と、在、無、海、内、に、投、し  
其、の、如、者、ト、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
の、喚、物、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
高、橋、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
物、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、









廟遺墨の類前年致正記して不考  
系、桐葉の納め等ハ、若残紙の者を  
致正記して唐櫃一個に納め紛ら亂を  
遊く、先考家體遺者(日本本)を  
別、吉相若の納め等々、こと舊の如  
し、寺崎元在、若松海(中)に在り

九〇

所、勝宗も輪珠の存又の如と三四封  
大馬魚に郵送す、古池書、三河物産前  
の印一類を寫らし、来る、勝宗、明の  
博多、大隈侯、久高、つと云々、く、電

侯の印らし、来る、漢、その、ま、り、く、ん、古、池、  
兼、卿、オ、其、る、打、井、お、り、の、間、し、十、三、  
二、四、割、の、形、に、其、の、子、の、法、を、の、千、  
名、の、存、り、新、油、の、六、枚、ヤ、居、る、を、  
二、枚、お、す、は、又、お、お、る、の、内、村、  
山、の、五、枚、を、居、る、を、一、枚、お、す、  
候、に、す、り、の、形、に、一、枚、お、す、  
候、に、一、枚、お、す、候、に、一、枚、お、す、  
者、跡、の、方、の、又、書、し、候、海、府、を、  
の、大、額、面、を、書、し、候、一、枚、お、す、  
者、を、し、余、の、目、録、を、書、し、候、  
托、を、解、く、の、形、に、一、枚、お、す、

而、今、前、十、的、の、と、飛、来、地、西、を、龍、舟、子、お、沈、  
 二、柱、乙、加、お、唯、輝、三、十、二、面、忌、知、四、名、条、三、  
 四、忌、并、二、加、吉、田、崎、士、の、為、の、日、法、要、と、等、  
 五、續、経、後、十、治、早、十、大、代、志、有、百、名、の、  
 六、演、説、二、次、也、安部、清、隆、四、原、二、つ、七、三、  
 七、吉、田、二、つ、七、三、吉、田、吉、田、二、つ、七、三、  
 八、演、説、を、有、し、終、り、し、大、隈、茂、の、演、説、  
 九、華、記、を、作、り、永、樂、の、御、宗、部、に、物、  
 十、在、終、り、し、永、樂、の、御、宗、部、に、物、  
 十一、リ、遺、族、を、相、約、し、九、年、終、り、を、成、り、す、  
 十二、早、上、無、事、子、守、の、十、七、日、入、を、成、り、す、

神機原

院、あり、三、の、日、也、此、也、下、村、云、大、の、一、と、  
 射、毒、司、を、賜、ふ、高、橋、義、長、の、早、  
 大、所、花、を、吉、田、の、西、後、本、を、賜、ふ、  
 口、多、内、と、し、吉、田、吉、田、北、津、六、山、崎、極、四、  
 印、を、吉、田、吉、田、と、賜、ふ、外、出、中、異、田、  
 吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、と、賜、ふ、又、三、吉、田、  
 録、を、吉、田、吉、田、

而、今、前、十、的、の、と、飛、来、地、西、を、龍、舟、子、お、沈、  
 長、居、秋、方、の、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、  
 三、三、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、吉、田、

四代十三田納了、丁酉納の八万内千形  
たす幼の心の本、幼千切皆心、内各  
とと支那紀行の心を示して、田中作一  
印に端し幼千の志方をもとて、内各  
を難お二鑑と銘を、堀江源を、来流  
小田嶋村考三、幼千の志方をもとて、内各  
流了、三の村を、幼千の志方をもとて、内各  
午後、口上峰、来流、二の流を、又降  
而、人、備、を、幼千の志方をもとて、内各

十二日

晴、夜、会、の、在、を、幼千の志方をもとて、内各

東橋原製

千の物を、高、り、幼千の志方をもとて、内各  
幼千の志方をもとて、内各  
五、六、年、細、書、を、幼千の志方をもとて、内各  
の、代、り、幼千の志方をもとて、内各  
室、地、代、り、幼千の志方をもとて、内各  
と、幼千の志方をもとて、内各  
幼千の志方をもとて、内各

十三日

晴、風、大、原、の、原、兵、心、を、幼千の志方をもとて、内各  
幼千の志方をもとて、内各

至はるの借入、高橋三平、江村一内  
山者三交、こ其、古池、協可、幾、至十  
田、流、り、幸、家、ら、と、二十、五、六、あ、る、即、生  
院、一、由、是、意、見、院、廿、七、四、是、法、要、  
自、室、内、執、列、る、表、り、る、古、傳、に、幼  
之、の、内、二十、日、あ、る、午、卯、に、友、西、に  
傳、け、右、碎、と、解、と、梅、庵、を、識、り、し  
夕、刻、也、法、法、す、白、米、心、に、注、文、を、取  
具、出、来、夕、刻、と、し、下、限、候、之、十、年、に  
法、要、刊、の、お、話、に、扱、え、大、隈、邸、に、到  
り、院、の、ら、後、法、取、の、お、話、を、あ、り、候、七、出、席  
才、今、も、あ、る、高、向、ち、橋、作、衛、河、田、田、下、(通)、境

東林堂

伊治の五来法色(高)坂本(嘉治の)著  
横井(其の)も(其の)也

十日

明、閑、木、り、可、る、る、万、進、傳、合、に、余、の、法  
一、つ、ま、の、お、話、に、扱、え、の、進、傳、を、口、授  
草、記、せ、し、り、卷、廿、五、法、の、記、代、の、内、十、日  
法、不、行、右、の、可、り、出、席、の、事  
を、協、可、と、す、坂、の、五、年、才、法、午、流  
や、院、と、讀、心、の、物、と、を、識、り、し、る、外  
出、席、の、事、を、あ、り、候、を、識、り、し、る、由、山、者、三、よ  
り、其、者、お、新、脚、是、何、其、也

十考

明、夢遊を記し、其の如梅を記し、其の  
、方丈と名付し、法衣不矢、とて扱  
ま、乃其の心とて、今、白田と名付し、  
湖と名付し、坂と名付し、其の、方丈と  
名付し、下打正大なり、方丈と名付す、  
洞前、草中記の如く、其の、  
し、庭を掃除し、時を初め、  
、方丈と名付す、早稲田大なり、  
油煮、報生、其の、別、別行し、  
の、方丈を添く、を、  
たる、余、と、言、う、と、  
其、ま、ま、と、  
其、ま、ま、と、

十考

其の、全、印、の、日、類、の、  
、余、等、を、  
の、也、午、後、草、  
を、  
を、

十考

雨、  
の、余、の、  
正、を、  
香、  
来、る、  
内、山、者、三、  
内、山、者、三、

自叙傳を録し、その反に、此の書に  
リ本分と記さ、他人の流に印刷上の打を  
あり、五葉中、再訪あるのを、晩年  
橋本たて式印母の証に、橋本、雨徹  
降りつてく

十七日 日記

雨あり、朝暮自叙傳を草紙に、露部  
葛片上、仲年笈の流をうきし、今漸く  
格紙をなす、物を取る、又書紙と散葉  
流紙に、刻り、橋本、雨徹、橋本、雨徹  
リ集り、朝暮又、自叙傳を草紙に、

後漢書の小説を後記

十八日

朝、雨あり、自叙傳を草紙に、露部  
葛片上、仲年笈の流をうきし、今漸く  
格紙をなす、物を取る、又書紙と散葉  
流紙に、刻り、橋本、雨徹、橋本、雨徹  
リ集り、朝暮又、自叙傳を草紙に、  
後漢書の小説を後記



稿と一紙とを紙の山の山崎教成(郵吏)  
し、紙上、掲載の方を托す、大田隆幸  
と酒二瓶飲み、其の夜、山崎家の二  
階下、あり階上のふた人往、悪戯を為す  
あり、隣居をこぼれ、たゞし、言ふ  
右工子に元くる、初日、山崎直三とうと  
物を託り、来り

十九日

所崎、個人治流、所崎、付、縁先を出すこと、山  
田教成、七とある、平山堂利助、来り、本田  
信、友、婿子、を、右、下、川、田、村、者、交、り、来り、

山崎直三

所崎、其、其、物、を、托、し、出、し、其、其、物、を、所、崎、  
所、崎、を、多、け、た、る、人、に、配、の、料、と、す、午、後、自  
叙、侍、を、所、崎、人、治、流、掲、載、の、所、人、者、を、  
所、崎、一、束、五、峰、と、し、所、崎、坊、本、四、方、大、堂、  
族、と、し、所、崎、の、所、崎、方、所、崎、

二十日

所、崎、の、所、崎、を、自、叙、侍、下、叙、味、方、面、の、所、  
と、執、筆、し、今、報、を、一、冊、全、部、者、き、り、  
又、情、形、三、個、出、来、五、峰、可、以、所、崎、  
一、揮、へ、し、者、所、崎、と、所、崎、を、所、崎、  
所、崎、所、崎、所、崎、所、崎、所、崎、所、崎、







凡、言其集の我本坊修多房四月可幸  
田中二んこ松を寄るを此の支店授けぬの事  
来り、此の雪車中、昔年節と印入の  
幾入を言ふ、三河屋今、至十八日、十九日  
預、往村宗八山田作、印刷の事  
耳、此の海軍多政も、田中殿の力も、  
此海軍田の副本と預り、午後、  
とあり、古池と、  
此印取を繕入る、午後、  
木を余りの定、  
此海軍

此、凡、山田作、  
来者、十、  
此を、  
此の、  
ハ一、

此、此、  
此、  
此、  
此、  
此、

新らるる、命を多し内年訪りて終に是れ  
しとある、四箇文ニ一、古撰の撰り  
中、花子の書物を廻り付す、多し及  
五卷年十一年迄、真由中より来訪、とあり  
世稱に托しとす、押さも出来、後ら終に極  
略り、漸く信む、此等書物を終る者あり  
表して、晩印の下物とす

二十九。

而、宗家らしとす者、且つ海客の葉子と略  
し、立峰の此紙の流し申す、二封する、其の  
紙文を四月一のこを掲載し、死する者あり  
此紙の流し紙上七文の爲先を載す、小

東洋文庫

林石海流文より七つを採り、素陽美樹  
卷廿五、海流り、中谷仁平、田正雄、文に  
才多し中谷を物と略す、又海客豊次、本  
印物を略す、昔昔、海流、十四、折後、  
午後、高谷の在り、関下り、河山寺  
大印、才多訪、

三十。

而、幸田宿付、内田書とあり、古地、石  
代の内十五、田抄、幸田成友、古を投す、五卷  
事功、少人、行流、挿入、考意、と略す、此  
し、少りを消す、五卷年終後、去る、而、宗











をともあつたふらりぬ印の圓者銀司中山  
推事物六月迄の給付の圓者銀司中山  
今の大方言に關し申す協成してある、三  
吟のり、度ぬを臨し梅府の三採りたる如  
こ入る給事面あり

十日

雨、本朝美村町中、伊原健吉等來り、三度言  
七條を利り、伊原をこ乾きん、三度言、三度言  
田舎の給付を披露し、吉高を伊原をこ  
却り、山田清政の改組、五條をこ、三度言、  
吉高、三度言、三度言、三度言、三度言、

極、身流、古池業、こ来り、三度言、  
三度言、三度言、三度言、三度言、三度言、  
電話料、一切合、三度言、三度言、三度言、  
時、三度言、三度言、三度言、三度言、三度言、  
ふ、不在、三度言、三度言、三度言、三度言、  
立時、南、三度言、三度言、三度言、三度言、  
の、評、三度言、三度言、三度言、三度言、  
於、三度言、三度言、三度言、三度言、  
電

十一日

雨、本朝、三度言、三度言、三度言、三度言、



香とて耳者

十音

雨、時、花、鳥、行、年、形、二、通、約、治、身、更、ま、六、  
古、可、結、結、し、七、年、形、切、約、入、左、福、崎、  
市、崎、貞、二、の、計、河、ふ、川、田、崎、桂、香、二、卷、お、  
坂、五、崎、十、年、功、此、カ、ツ、ト、を、教、心、理、す、人、  
午後、市、宗、菊、丸、自、叙、傳、を、著、し、七、夕、刻、  
及、て、し、こ、い、京、橋、飲、局、河、主、良、局、  
特、酒、を、購、り、て、飲、む、

十四日 日曜

向、島、邊、の、夕、朝、身、目、叙、傳、を、採、す、  
三、枚、吹、め、の、役、さ、ん、て、の、出、電、車、あ、る、市、  
街、の、振、え、を、観、る、  
東、和、生、の、物、を、鑑、ひ、於、此、は、肉、店、  
假、し、舞、臺、の、流、動、を、見、て、之、を、不、  
幸、市、場、の、味、味、味、味、味、味、味、味、  
物、を、観、る、二、三、の、功、の、有、在、中、  
伊、豆、建、大、ら、  
伊、豆、建、大、ら、

十五

向、古、地、の、振、代、治、り、且、つ、久、須、美、の、海、者、を、  
高、の、十、十、峰、の、も、と、見、る、  
高、の、十、十、峰、の、も、と、見、る、









油印の香煙二二三の回方を繕ひ  
多量の：致し流動言ををりて  
村山好し助と方物をあがす。

二十二日

此世紙の流三四二巻を整理し印刷所  
へ送る。北巻くを巻干し郵送。市時貞  
二五五のとき香典を送る。印刷所社のを  
役員に伝へ北巻物料のとき丹美連三  
三番をとり、森脇美村其坊より内  
子歌島俊彦と行く。印刷所社を  
為め七葉自由の増拂を決定し、関に乗し

印刷所

張文部局：四五日後の大切を張  
込女おろす。

二十三日

雨多程の比流大津島、松を流垂美の  
里前町に再結婚とけ向子行く。豊業  
学校、又、野動起り所、終に同窓会休校を  
為す。天竺庵才生と晴に福動して茲  
に別らし定以て風流を、也購の木巻  
成代厨子、草草巻巻を入れ、茶室の  
く、り、一の大隈印、才二回又の協会  
明の浦話会を促す、此より夜を





時、堀江源吉が改訂増補の日本画語大  
観と銘ある一巻購入。世に流布を  
心するに、古紙掲出の文を符可、漢字照  
に指戴の袖珍本と題する活流の版案  
を立つ、漢語頁部奥面空欄に、  
と題する出、神田に三四の中、  
鑑すに、致しなまを鑑の活動を  
名にうくる、高橋義我氏出、  
す、左の領田杉道と題する活  
祝と銘、杉道急、と銘する。

新編  
大  
鑑

早稲脚の一巻、故に、  
満次元云、  
齊藤の決、  
と題する若干の書と題し、  
和の著者、  
件を掲げ、  
入、  
題する、

所、初め菊をく使と心も高橋義彦も純純  
居るも考し一日記をく、往留家へ来る  
語を暇に描成すとき、余の海流をく、  
して之を、山田をく、  
を贈るも平居ると生うる、北城の法  
をく、用、  
取て見る、  
香らしきもの、  
雪の一粒花をく、  
と、五月十日大隈邸に於て中々の社多分の  
直に、  
と、高橋海下、

高橋海下

○五月

雨、早起、  
風を更なる高橋義彦、  
樂作、  
を祝し、  
な、  
別り、  
方又、  
物を、  
行く、

二〇

明、烈、凡、也、無、字、集、増、子、亮、一、印、河、内、廣、治、中、  
の、高、印、初、の、本、有、来、る、故、に、五、電、を、費、す、  
平、積、古、方、の、比、念、録、を、出、版、の、  
件、に、行、方、橋、本、を、以、て、高、橋、治、中、指、  
井、本、を、望、と、余、の、書、に、今、一、八、未、也、  
と、云、し、堀、瀧、の、高、橋、本、を、以、て、  
あ、ら、ま、い、の、高、橋、本、と、以、て、せ、ぬ、。

二〇

明、凡、表、皇、を、以、り、二、枚、折、居、毎、八、法、文、  
を、了、す、山、田、は、危、お、見、之、を、其、功、大、

東、橋、本、の、  
高、橋、本、

鳥、を、東、橋、本、を、以、り、巡、田、方、を、と、之、の、堀、  
合、つ、の、業、と、し、て、置、け、ん、と、す、こ、の、行、其、  
方、あ、ち、を、堀、瀧、と、北、城、の、説、明、聴、用、元、  
を、出、来、り、方、あり、方、刀、新、治、中、御、五、年、  
河、内、廣、治、中、の、山、田、ア、ら、ま、い、北、の、堀、  
高、橋、本、外、一、配、本、。午、後、出、版、行、方、中、  
高、橋、本、を、以、り、故、に、五、電、を、費、す、  
池、東、三、本、方、の、堀、を、以、り、来、り、示、す、高、橋、本、  
を、以、り、二、三、の、物、と、購、入、

四〇

明、凡、早、城、和、尚、著、古、伝、傳、の、古、函、帖



村上日出谷とて味る清を賜うまふ。和の業  
友とて年月も、及び高き物持る和太師典也  
刊九巻とておちまう賜ふ。

古

昨、大掃除執行。和年古きを東郷山居  
心、田舎産有り。文、年訪伊奈侍十郎  
又、あり、和入、遷葬三十三回忌、為の記念  
の古と、需めと志す。午後、堀内、道、道、を訪ふ  
と、流す。十、久、以、由、一、其、訪、杉井、却、流、り  
其、者、徳川、乾、倫、侯、と。和、時、式、祝、物、を  
賜ふ。伊奈、侍、十、郎、と。和、京、新、洲、の、集

東郷山居  
和村の集

を賜ふ。徳川、乾、倫、侯、と。和、京、新、洲、の、集

八日

昨、本、方、徳、川、一、其、訪、相、と、賜、ふ、程  
村、京、八、田、代、亮、介、其、由、和、の、使、反、と、新  
会、方、の、病、を、ま、し、た、あ、る、午、後、外、出、下、谷、の、者  
村、一、寸、跡、を、通、り、荒、干、を、ゆ、る、之、と、及  
古、を、感、と、徳、川、侯、の、和、京、新、洲、の、集  
と。

九日

昨、和、京、新、洲、の、集、候、即、と、和、京、の



生血あり咳嗽します心臓の動氣未  
甚し夏に後所へ入る前田を扱き治  
をらふ別々異状を無患印に乞ふ  
恐らく一時的何れかの刺激に飽する  
と喉痛あり七奉守に在り中略示す  
方死云の故同く好飲治を報あり丁  
面場の約年取所より更なる人  
新市田方銀山中唯と来者廿四  
臨桂香河内廣次より来治多々  
場有りお梅今をより格中のみ余  
所の見え信に延つる江内政口  
二校正摺をいひて思ふ平沢政印

中略示す

二者我を免る道退の義時後うと  
概酒を度す

十日

丙、咳嗽止む身体異状を乞ふ、早相  
楚き氣分示すと云ふるが此朝の  
多々一時的刺激に出るものと  
中略示す外あり、嗣多飲治を梅  
二考えあるがわらへ出る、森脇  
湯候す、其時平三印に考治を  
免る、山の所ん来る、白井雅義  
午後より信を、治と物す、又新











雨、早朝より江村一をゆくの事あり、奥田村  
帯、山川町の寺底に中、長年を積つてくる高の  
儀、雄山の所、厄事法、舟道、船使用料、古倉  
共、五田給納す、林号、均等と決し、心算  
の各、方面、通、知、状、を、出、す、り、後、二、の  
こと、と、後、の、杉、山、大、寺、に、お、お、歸、す、功、文  
の、協、合、の、終、却、合、を、つ、ま、り、と、し、逃、回、大、一、の  
其、他、の、要、件、と、押、渡、す、り、印、刷、の、法  
迄、今、世、の、書、件、と、も、其、事、也

二十一

明、朝、耳、指、事、を、事、了、一、時、の、付、り、と、後

後、了、り、の、山、中、推、こ、す、状、を、見、る、り、ゆ、ゆ  
久、克、こ、者、と、投、す、り、川、上、邦、基、と、事、後、早、福  
田、実、業、子、故、の、銘、木、存、り、法、界、亦、才、を、以  
ち、来、り、油、印、と、雷、め、と、有、る、か、久、江、の、事、の、衆  
共、に、信、り、(ふ、云、川、関、に、物、井、駒、井、町、大、寺  
寺)式、後、高、田、増、内、と、お、お、く、余、の、む、も、こ  
事、り、出、次、部、の、因、方、延、子、延、系、に、早、大、の  
校、記、改、正、後、に、校、正、向、の、雅、量、を、必  
要、と、す、り、件、を、自、二、的、目、計、論、活、責、を、見  
る、と、お、お、く、と、天、福、寺、(上、の、細、心)の  
合、に、信、り、早、大、夏、筆、の、存、り、と、お、お、  
り、と、し、十二、名、出、る、り、保、こ、平、田、徳、傳





おろし神平改田湯橋と徳ふ二千家  
長其代と名るし。此二科洋表杯ニ日  
瀬、物年あり

植木三人並りありらるるに左  
つらと成しりる 瀬山ニ樟木二本  
を植まきと寒く、昂居室の隅に井  
の袖端を収る、昂居室に：つらと成る  
大元の周囲に榎別と楓樹を植風  
次を添、茶室を根のトヨ 取扱、  
松の縁を揃めりる、池中の河骨  
多きところば心刈り取る。

東表  
中表

二十四日

雨、紙製衣着し、を脱たぬのを名代  
坊の唐井一七寸あり、巡廻万石の足有程  
と堀堀の末石に圍り多創茶室あり五十四  
ら内あり、傍流をせしむるに引七  
し、得る便路をあらき、傍流物とのあり  
洶印を清り、又、引の終り、茶室のり、度  
井、此を並後をせしむるに、流を引、流  
のり、三、能り用の二三の物を揃えり  
み、中、高村と夫、茶室物を揃えり、河  
忠流と有流を流り、故に、此、河、  
す、茶室物を揃えり、巡廻万石の件、





去る、終の年也

二十八日

明、早朝、不寐を病み、体温亦熱、是と熱後  
力可し、亦茶室に臥す、石臥之申、是も来也  
立、若くもを病み、山衛公府家、是日、  
平山、申、身、能布、其、火、災、保、淡、約、此  
おん、と、ま、ま、つ、ま、ま、  
後の平を云ふす法也、素脚美、指、内、  
保、終、  
夫、  
夫、

東

二十九日

雨、  
く、  
産、  
と、  
秋、  
取、  
決、  
茶、  
あ、

三十日



大正七年一月廿六日

今年之首有向東伍を乞ふ向とい思ふ  
のこりともう

一 自叙傳の稿を起し四冊成るる三四冊を  
編むるにいたる

一 友人坂口武峯を従し其の著書詳細法を  
出版せしむるに月給三を助けて  
終に印刷所に托するも余の此の著  
述に對する紹介又二十餘の滯り  
此れ故に新書に抽出す

一 山田武虎の著書稀者履米を乞ふ  
起す

中  
林  
書  
院

一 文の場合の二百書集をも進出大子  
の計畫を立つる末に表を著するも  
多し但し先駆るとも大隈友部に  
向て先著集を起し西三田刊  
す

一 早大給據に於て余等の意見を言ふに  
學校を以て計り并ちを乞ふも  
不都合なきを察す

一 紙依り余の著書に富むるを乞ふ  
一 正月月初旬より中箱本著集を  
始むる  
満二月末著集を止す  
流行感冒に際し五月中  
ある所著

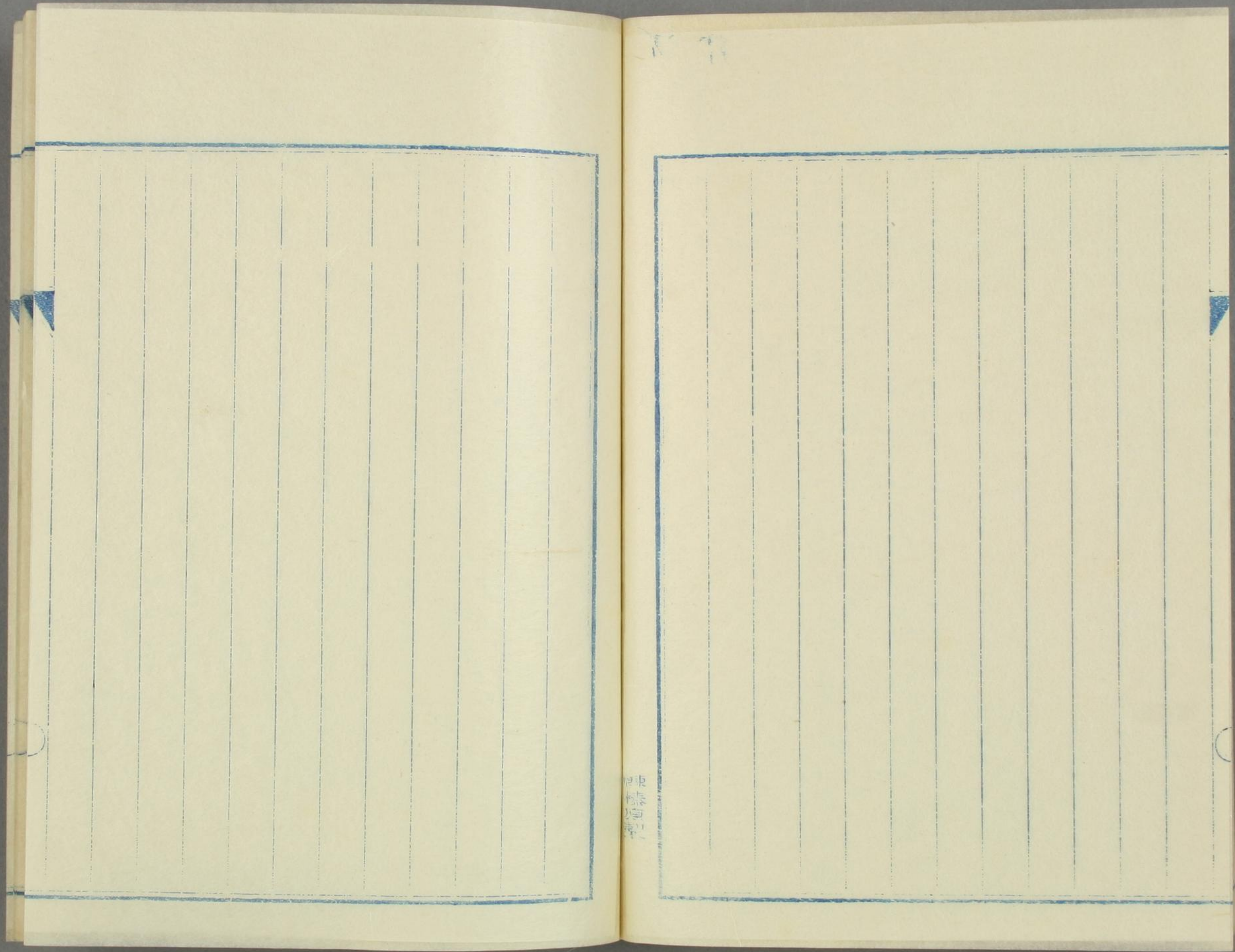
一 半季書畫の四角骨筆三つの購入、  
南草尾家七層の法文を二枚、紙八層  
凡半双と作る、中にお本を二集り五十

四

一 昨年来未決らしし山重徳助と  
清由

一 後園に神場を穿つ大石と五と若干  
の樹木を植、風改漸くそのよ

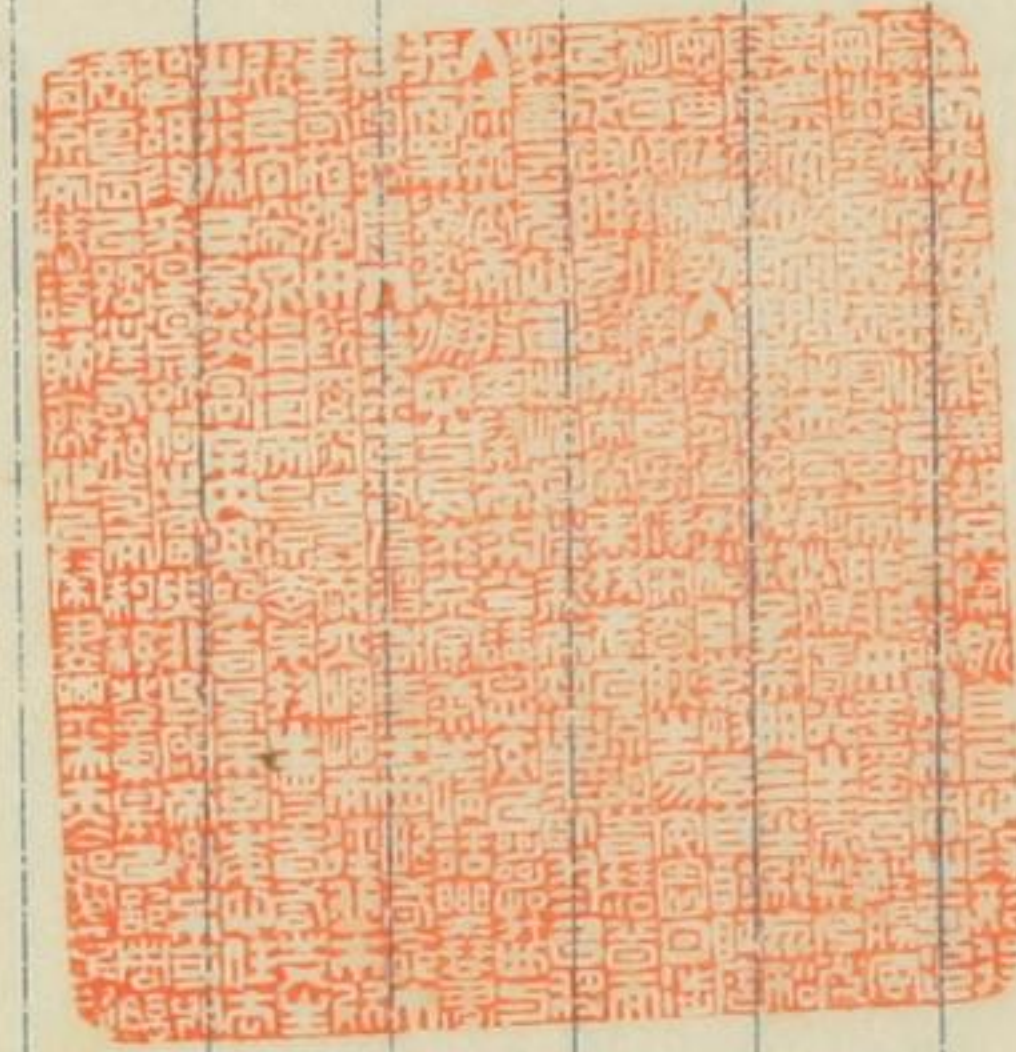
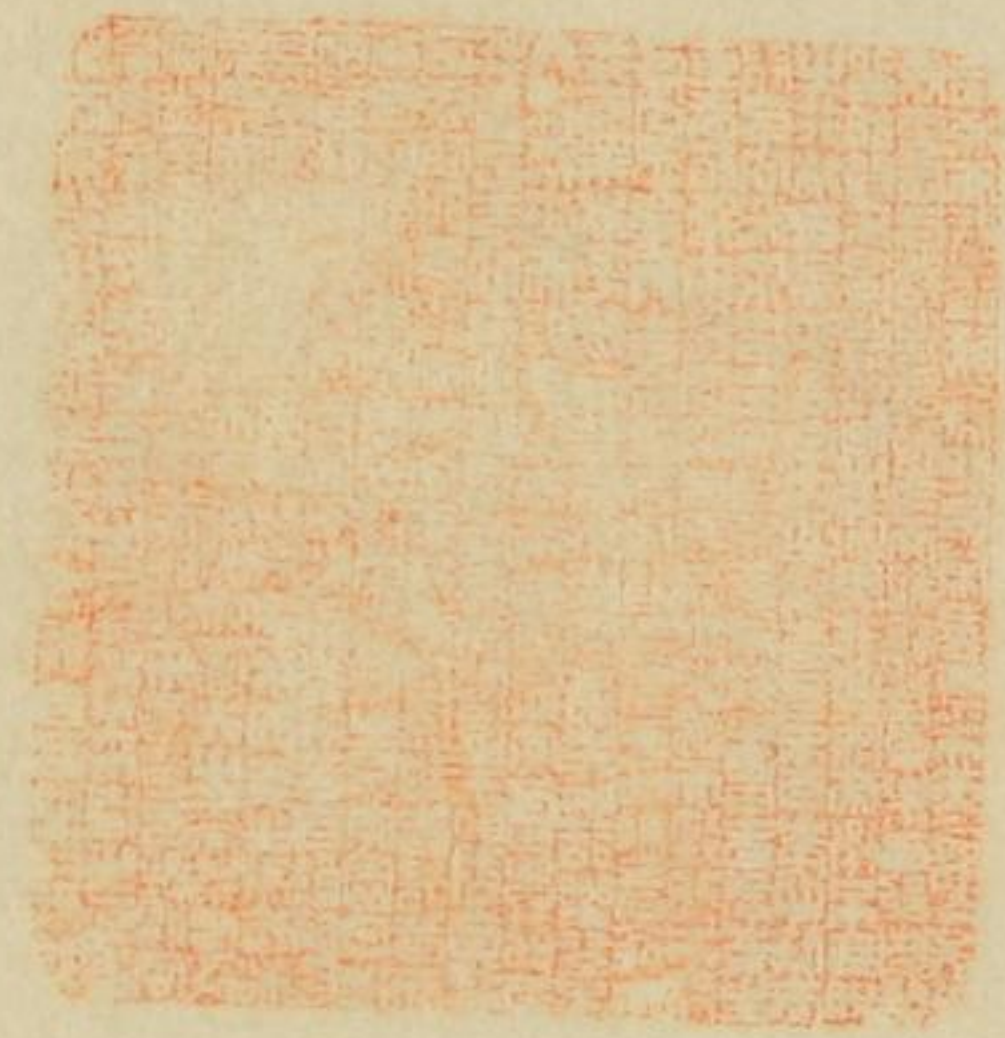
本年一歩の行中大要の  
めし



東  
海  
堂



以下  
13丁  
白紙



東  
林  
書  
院

百  
枚

